

先週の礼拝メッセージ(2023年9月17日シニア祝福礼拝) ベン牧師

「時が来れば実現する主の言葉」 ルカによる福音書 1:5-25

年若いザカリヤとエリサベトには子供がいませんでした。ザカリヤが祭司の務めのために聖所に入って祈っていた時、天使が現れて子供が与えられることを告げられるのです。生まれる子は、彼らの喜びと楽しみとなり、主の御前に偉大な人になり、人々を神である主のもとに立ち帰らせる、との預言通り、後のバプテスマのヨハネです。

当時は、子供がいなかったということは神に呪われた者であると言われていました。もちろん聖書にはそのようなことは記されていませんが、社会的通念となっていました。ですから、祭司ザカリヤと、アロン家の娘というエリサベトは、間違いなく子供が与えられるように祈り続けていたことでしょう。しかしそんな二人の祈りはきかれませんでした。当時の女性の結婚は、15歳前後でしたから、子供が産めない歳というのは、この時点で彼女は50歳は超えていたでしょう。ですから子供を願う祈りは、30年を超えた祈りだったはず。信仰を持って熱心に祈り続けたけれど、現実には歳をとり、月のものも止まり、子供は望めない体となってしまいました。どれほどの落胆だったでしょう。彼らは現実を受け止め、子供を求める祈りは諦めたでしょうが、それでも神様を信頼し、忠実に仕えるという姿勢は崩しませんでした。ですから聖書では、「二人とも神の前に正しい人で、主の戒めと定めとを、みな落ち度なく守って生活していた。」(6節)と彼らを称賛しています。

もちろん彼らは、今日の出来事が起こることも、やがてそれが実現し、生まれた子がイエス様の前に道を備える大きな働きをすることも知る由もありません。全く期待してこなかった彼らに、天使の言葉が告げられたのです。

この「時」には神様のご計画があったのです。バプテスマのヨハネは、イエス様の生まれる6ヶ月前に生まれています。(ルカ 1:36) この間隔も、神様の絶妙なタイミングなのです。バプテスマのヨハネが現れ、多くの人に悔い改めのバプテスマを授け、人々の心を整えて、その後にイエス様がメシアとしての働きを始められるという、ヨハネ働きとイエス様の公生涯が一つの流れとなって実現するということが大切だったのです。まさに、神の時に来て、神の言葉が実現したのです。

「そのように、私の口から出る私の言葉も空しく私のもとに戻ることはない。必ず、私の望むことをなし、私が託したことを成し遂げる。」(イザヤ 55:11)

神の言葉は必ず神の時に実現するのです。

私たちの人生において祈ってきたけれどきかれないとか、祈りがきかれるまで長い年月を要するという祈りは多くあるのではないのでしょうか。だからこそ、クリスチャンにとって歳を重ねるということは大きな祝福なのです。なぜなら、救われて30年、40年、祈り続けて、祈りの応えを経験する機会が、若い人よりも多くあるからです。

「白髪は誉れある冠。正義を行う道に見いだされる。」(箴言 16:31)

これはただ歳をとることが良いということではなく、神を信じて歳を重ねる人は、素晴らしい経験をし、多くの証を持っているから素晴らしいということなのです。教会にとって、年配の方々がおられるということは祝福なのです。そして、それらの方々が、ご自分の経験を主の証として、皆さんに分かち合ってくださいることによって、教会全体が祝福されるのです。

祈り続けていくことが、主の時を経験する秘訣なのです。ザカリヤとエリサベトにも神の時がありました。それは天使が告げるまで示されませんでした。彼らの思いを超えて神のご計画は進み、最も良い時にそれは示されたのです。彼らは子供を願う祈りは諦めたけれど、神に信頼し続けることをやめませんでした。私たちも信仰の歩みの継続の中で、歳を重ねていきたいものです。また、歳を重ねるほど、周りの人々に受けた恵みを証ししていく者になりたいと願います。証しのあるところに神を誉め称える賛美が生まれまします。そこには祝福が溢れてくるのです。私たちが欲しいものは献金でも働き手でもありません。神の祝福ではないのでしょうか。世の中では歳をとるということはネガティブなこととして捉えられることが多いですが、クリスチャンにとって歳を重ねることは、主に信頼し続ける年数が多くなり、神の恵みの証を多く持つという祝福そのものなのです。教会に年配の方々がいらっしゃるということは、神の祝福に満ちているということなのです。シニアの方々はその恵みに預かっていることを感謝し、後に続く若い方々に、恵みの証しを分かち合ってください。